unicef Teachers' Network通信

T·NET通信

ティー ネット

2003 WINTER

No.23

発　行

財団法人　日本ユニセフ協会　学校事業部
〒108-8607東京都港区高輪4-6-12　ユニセフハウス　TEL03-5789-2014　FAX03-5789-2034
ホームページ：http://www.unicef.or.jp　募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会

子どもの参加！「2003年 世界子供白書」発行

"They brought us their ideas, hopes and dreams."

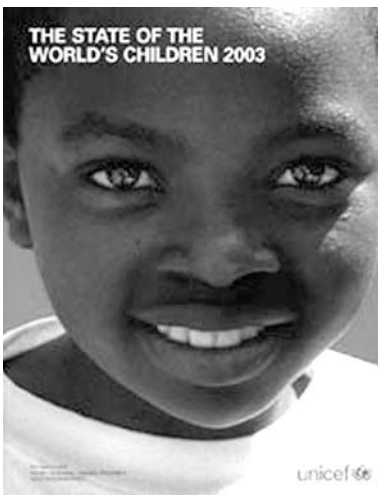
Kofi A. Annan / Secretary-General of the United Nations

子どもたちは、考えていること、望んでいること、そして夢見ていることを私たちに教えてくれました。

アナン国連事務総長のメッセージ「2003年世界子供白書」より

テーマは「子どもの参加」

「子どものために、子どもと共に世界を変えていくという約束は、21世紀に、子どもにふさわしい世界を築くこと・・」と始まる2003年世界子供白書のテーマは、「子どもの参加」です。



2003年世界子供白書　©UNICEF

白書では「子どもの参加」について、子どもの意見を求め、子どもの視点を真剣に取り上げ、子どもにとって有意義な参加を手助けする、というおとなの責務について焦点を当てています。

また、子どもに影響を及ぼす問題について、子ども自身の考えを盛り込むこと、そのためにおとなは、子どものさまざまな声を聞き、その決断には子どもの声を考慮することと述べています。

有意義な参加を通して学んだ子どもたちは、広い視野を持ち、自分が担う役割を理解し、責任を果たすことを知ります。それは、子どもが住みたいと願う世界をつくるために、子どもが積極的に活動する世界へ移行することなのです。

なぜ「子どもの参加」なのでしょう？

「自分自身に関係することにかかわる」―「参加」という行為は、おとなに当てはまっても、子どもにはあまり当てはまりませんでした。例えば、子どもたちが地域の話し合いや、会議に関わることはほとんどありません。それどころか、子どもは無視されたり、大切にされていないこともあります。

その事情や理由はさまざまですが、健やかな成長を阻害されるような厳しい状況に置かれている子どもたち、子どもなら誰もが願う希望や思いが叶えられない子どもたちが本当に必要としていることは、子どもが一番知っているのです。

だからこそ、子どもたちは本当に必要とすることを発信し、おとなはそれをよく聞き、理解し、考慮しなければなりません。そのために、これまでおとなたちだけで行われてきた会議や意思決定の場に、子どもの参加が必要になってきたのです。

参考資料のご紹介

●「2003年世界子供白書」
- ●当協会ホームページ「2003年世界子供白書」で検索してください。
- ●ユニセフ本部ホームページ（英語）「http://www.unicef.org/sowc03/」

●「2003年世界子供白書」日本語版のお申込み
郵便番号、住所、氏名、学校名、電話番号、必要な冊数を明記の上、(財)日本ユニセフ協会 学校事業部までハガキ、あるいはファクス(FAX:03-5789-2034)でお申込みください。1部まで送料・実費ともに無料です。日本語翻訳版は2003年3月末に発行予定。その後の発送となります。

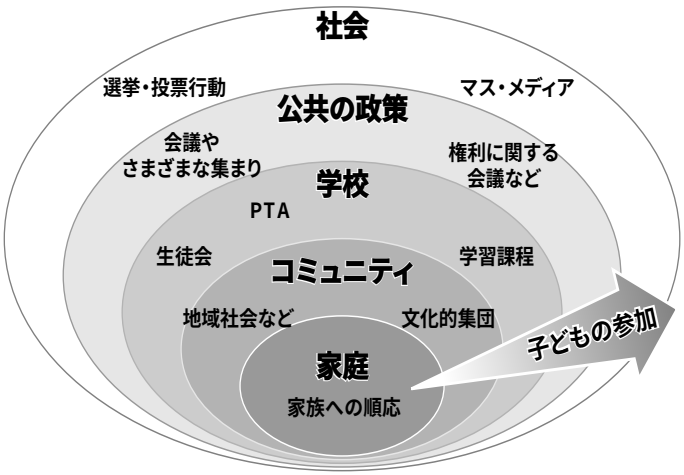
unicef 国際連合児童基金

成長に応じて広がる「子どもの参加」

図は、子どもが社会に参加していく広がりを表したものです。

子どもの成長に応じて、子どもが参加する、または参加できる機会や範囲がどんどん大きくなります。例えば、学校では生徒会、各種委員会、クラブに参加することを通じ、子どもたちは考えていることを表現したり、仲間と交流したり、共有する体験をします。そしてより広い世界に関わっていきます。

逆に内側に向かっていくと、学校からコミュニティへ関わっていくことになります。クラスや学校全体で、地域のお祭りや行事に参加すれば、子どもたちの意見や楽しいアイデアを取り入れた「子ども参加」の内容になるでしょう。



（出典：R. Nimi's powerpoint presentation at UNICEF's Global Lifeskills Workshop in Salvador (Bahia), Brazil, June 2002)、『2003年世界子供白書』より抜粋。訳：（財）日本ユニセフ協会）

「子どもの参加」の根拠

「子どもの参加」という考え方は、「子どもの意見を聞くのはいいことだ」という、単に子どもの考えを認めるということではなく、きちんとした背景があります。それは、「子どもの権利条約」と、この条約をもとにしたユニセフの「Rights Based Approach ― 子どもの権利を基盤としたアプローチ」という考え方で、次の4つの内容で表されています。

1）差別をしない
2）子どもにとって一番良いことを
3）生きていく権利を守る
4）子どもの意見を大切にする

アフガニスタン難民の兄弟
©UNICEF/HQ01-0631/Shehzad Noorani

「子どもの権利条約」は1989年に採択された条約で、子どもたちがもっている権利と、それを守るために人びとがすべきことがまとめられています。ユニセフの活動は「子どもの権利条約」を基本にしています。

そして「子どもの権利を基盤としたアプローチ」は、実際に開発途上国での支援プログラムをつくる時のユニセフの指針となるものです。

参考資料のご紹介

● **国連子ども特別総会**
当協会ホームページ「 http://www.unicef.or.jp/gmc/kokuren.htm」
●**「子どもの権利条約」**
●当協会ホームページ「http://www.unicef.or.jp/kenri/joyaku.htm」
●「子ども権利条約カードブック」（財）日本ユニセフ協会発行
お問い合わせは　学校事業部へ　☎03-5789-2014

「子どもの参加」ー世界の事例

「子どもの参加」は、積極的に社会で生きることを学ぶ体験学習の機会を、子ども自身でつくり出す取り組みです。中国と、国連子ども特別総会での事例をご紹介しましょう。

「国際子ども放送の日」ー12月第2日曜日は子どもが主役！

「国際子ども放送の日(The International Children's Day of Broadcasting (ICDB))」は、1992年から毎年12月の第2日曜日に行われています。

各国のテレビ、ラジオ、雑誌、新聞などのマスメディアが、若者に大切な問題について、そして若者たちが世界に変化をもたらすために行っている活動について放送する日で、ユニセフは各国で番組製作の協力をしています。

CCTV・中国中央電視台（テレビ局）は、10代の子どもたちのジャーナリスト養成学校を北京に開校し、9歳から12歳の子どもたち約300人をジャーナリストに育てる試みを2002年8月から行っています。**「子どもレポーターになれて、インタビューの仕事ができるのは、とてもラッキーなことだと思うんだ。報道ってとても大変な仕事だけれど、忍耐することの大切さも身をもって感じたし、カメラの前で緊張しないだけの度胸もついたよ」**と12歳のヤン君は話していました。

「国連子ども特別総会」ー初めて子どもが発言！

2002年5月8日～10日に、国連本部で「国連子ども特別総会」が開催されました。

「子どもにふさわしい世界をつくるためには何をすればいいのか」を話し合い、1990年の「子どものための世界サミット」での約束がどのくらい達成されたかを検証し、今後の行動計画を作成することを大きなテーマとしていたこの総会には、60カ国以上の首脳、約180カ国の政府高官をはじめ、6000名以上が出席しました。でも、本当の主役は153カ国から参加した404名の子どもたちでした。5月5日～7日に子どもたちだけによる討議が行われ、特別総会は子どもたちの演説で始まりました。

数多くの討議を経て、2010年までの達成を目指した21の具体的な活動計画（子どもの死亡率低下、就学率の向上、HIV/エイズから子どもたちを守ることなど）を定めた「子どもにふさわしい世界」という最終文書を採択して特別総会は閉幕しました。

子どもの演説
©UNICEF/HQ02-0148/Susan Markisz

国連子ども特別総会
©UNICEF/HQ02-0144/Susan Markisz

2003年世界子供白書には、「子どもの参加」の流れを受け、「子どものために、子どもと共に」世界を変え、「子どもに、そしてすべての人びとにふさわしい世界」をつくっていこうという決意が込められているのです。